

4 テーマ

テーマ1 栄区らしい共助社会づくり

【現状と課題】

1 自治会町内会を中心とした活発な地域コミュニティ

栄区は、自治会町内会の活動が活発です。自治会町内会を中心に、運動会、夏祭り、敬老のつどい、防災訓練など、様々な取組が行われています。また、自治会町内会の活動を土台として、地区社会福祉協議会（以下「地区社協」と言います）・民生委員・児童委員（以下「民生委員」と言います）等各種団体が連携して高齢者や児童の見守り等、様々な福祉活動を展開しています。

一方、自治会町内会の加入率が減少傾向にあること、担っている方々の高齢化などから、幅広い世代の参画などがこれからの重要な課題です。

2 活発な各種団体の活動

栄区では、民生委員、保健活動推進員、スポーツ推進委員、青少年指導員、消費生活推進員、食生活等改善推進員、子ども会、シニアクラブなど、多くの各種団体が地域で活発に活動を展開しています。また、福祉関係の団体が、地区社協のもと、連携した取組を進めています。地域福祉を支える重要な担い手です。

住民の皆様の各種団体の取組への理解を深め、参加を広げていくことが今後の課題です。

3 地域住民の意識

(1) 区民意識調査

ア つながりの現状

隣近所とのつながりについては、「道で会えば挨拶くらいする」が47.2%で、「たまに立ち話をする」が33.2%と、ゆるやかなつながりが約8割となっています。一方、「一緒に買い物に行ったり気の合った人と親しくしている」、「困ったとき、相談したり助け合ったりする」などやや密接な関わりのあるつながりは、13.9%となっています。

世代別に見ると、年齢が高い世代の方が、やや密接な関わりのあるつながりに関する数値が高い傾向にあります。

イ 今のつながりのあり方

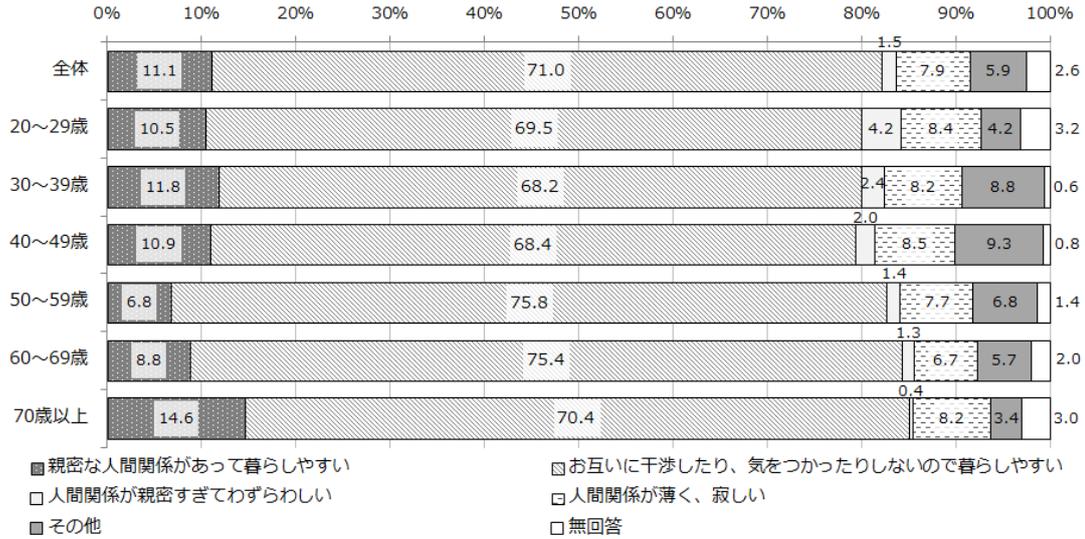
今のつながりについて、ほぼすべての世代で約7割の方が、「お互いに干渉したり気を使ったりしないので暮らしやすい」としています。また、1割以上の方が、「親密な人間関係があって暮らしやすい」としていますが、50～60歳代の方は、1割以下と低くなっています。

ウ 地域活動への参加状況

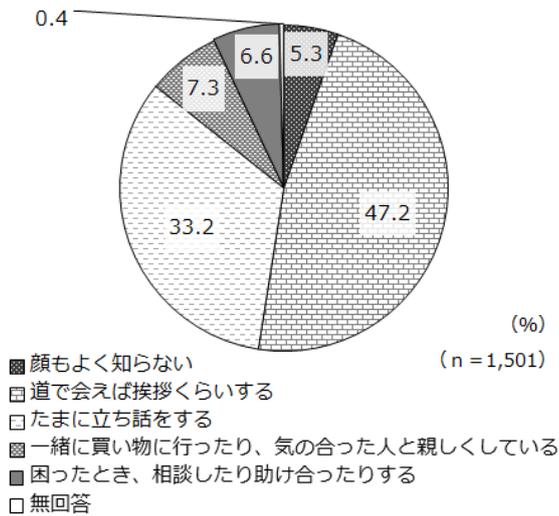
「自治会、町内会の活動」(38.6%)、「資源回収やごみの分別、リサイクル活動」(24.2%)、「身近な道路や公園などの清掃活動」(18.2%)、「祭や盆踊り、運動会などの活動」(17.4%)の順となっています。

世代別にみると20歳代の方は地域活動について「特にない」が7割近くになっています。また、30～40歳代も「特にない」が一番多く、その次に、「祭や盆踊り、運動会などの活動」が高くなっています。

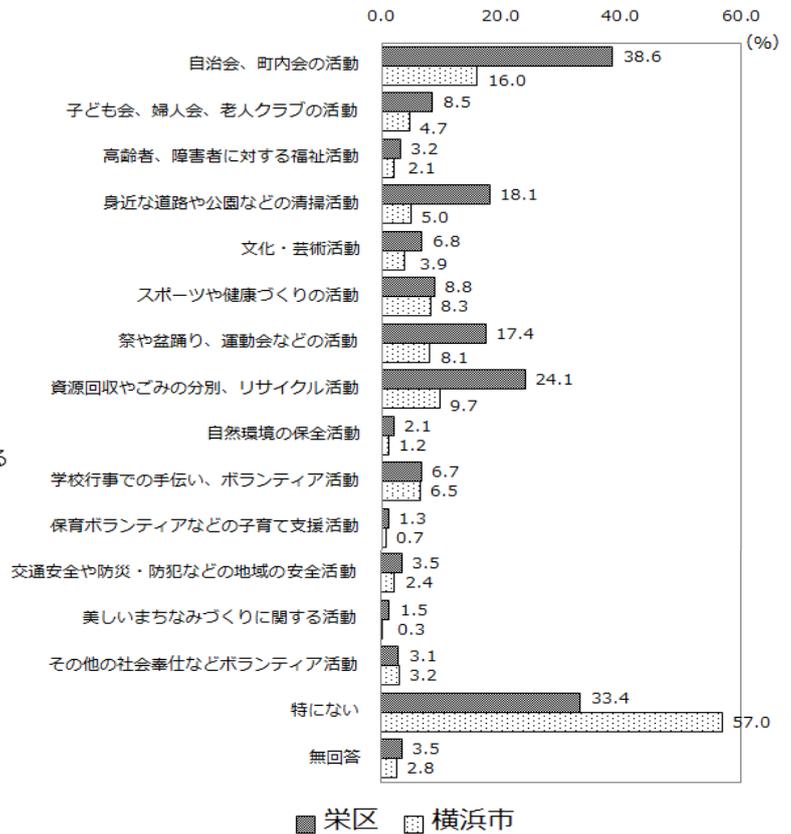
隣近所とのつき合いの感じ方



隣近所とのつき合い方



ボランティアへの参加意識



出典：横浜市 平成 27 年市民意識調査
栄区 平成 27 年区民意識調査

※ 横浜市の結果は、平成 27 年市民意識調査の問 16『あなたは、現在、仕事や学業以外にどのような活動に参加していますか。』より、栄区の結果は、平成 27 年区民意識調査の問 18『地域では様々な活動を行っていますが、あなたはどのような活動に参加していますか』よりそれぞれ抜粋しており、参考として比較しています。

(2) 今後の課題

昨今、住民の近隣関係は希薄化していると言われていますが、栄区では、ボランティアなど「何かに役立ちたい」という意識は高くなっています。自治会町内会などの既存の組織への参加促進とともに、多様なスタイルの参加が可能となる受け皿づくりも必要となっています。

特に、団塊の世代など様々なノウハウを有するシニア世代が地域活動へ参加していくような取組を進めていく必要があります。また、早くから地域に関心を持てるよう、現役世代への働きかけも必要です。

4 福祉課題の多様化、複雑化

地域住民の生活を取り巻く課題は、これまで以上に多様化し複雑になっています。特に、虐待、貧困、ひきこもりなどは、支援を求めにくく、顕在化しないまま、家庭の中で問題を抱えていることもあります。

これらの福祉課題は予防と早期発見が大切です。地域でなければ把握できない課題も多く、地域がセーフティネットとして果たす役割は重要です。

5 福祉施設とボランティア

栄区には、実績と経験豊かな福祉施設が多くあります。これらの施設では、地域交流が積極的に進められ、地域の方々のボランティア経験などを通じた人材育成の場にもなっています。今後も経験豊かなボランティアが増え、地域福祉を担うことが大切です。

コラム 社会福祉法人の地域貢献

※「社会福祉法等の一部を改正する法律案」において「社会福祉法人は、社会福祉事業及び第二十六条第一項に規定する公益事業を行うに当たっては、日常生活又は社会生活上の支援を必要とする者に対して、無料又は低額な料金で、福祉サービスを積極的に提供するよう努めなければならない」と規定し、「地域における公益的な取組」を実施する責務を位置づけました。

※区内の社会福祉法人の連携した活動

…福祉フェスタの開催

平成27年度で第7回目、区社協高齢者支援分科会会員である区内高齢者施設が主体となり、地域住民に区内の福祉施設を知ってもらうこと、地域住民との交流を目的として周知、啓発活動を実施しています。



▲福祉フェスタの様子

6 地域に根差した事業展開

栄区では、地域課題の解決に向け住民が主体となり、ボランティア、NPO法人、実行委員会など多様な組織による活動が進んでいます。介護保険などの福祉制度も充実していますが、それらではカバーできない多様な課題に取り組んでおり、今後とも、その広がりが求められています。

一方、住民が中心となったNPO法人などの立ち上げについては、専門的なノウハウを含めて、様々な支援が必要です。

7 区役所・区社協・地域ケアプラザの役割と今後の展開

(1) 現状

区役所の福祉部門、区社協、地域ケアプラザでは、地域の様々な活動に参加はしていますが、これまで、個別対応の業務が中心であるため、必ずしもスキル、ノウハウが十分ではありません。

また、民間部門も福祉分野に進出していますが、これらの状況も十分に把握し、民間ノウハウを積極的に取り入れています。

(2) 今後の課題

区役所・区社協・地域ケアプラザは、各地区の福祉活動の活発化に向け、重要な役割を担っています。交流のきっかけづくり、NPO法人の立ち上げ、ボランティア等の人材育成などは喫緊の課題であり、各組織においても意識改革のもと、対応していきます。

また、社会福祉法人、企業などの民間活力をいかした多様な福祉サービスの提供に向け、協働していく視点も大切となります。

8 個人情報の取り扱い

個人情報保護法等の関係から、個人に関わる情報提供が制約されます。また、区民の皆様も自身の個人情報が伝わることについては、敏感になっています。

こうしたことから、地域で把握するきめ細かな情報をもとに、見守りなどの地域ネットワークづくりにつなげていくことが重要です。なお、災害時要援護者については、一定の条件のもと、見守りのしくみが構築できた自治会町内会へは、要援護者名簿の提供が可能となっています。

【目指すべき地域社会のあり方】

1 自治会町内会活動が共助の母体となる地域社会

栄区の地域社会の母体は自治会町内会活動です。単身世帯の増加などにより、近隣関係の希薄化や自治会町内会の加入率の減少傾向などがあります。こうした時期こそ自治会町内会に支えられた地域コミュニティを強化すべきです。自治会町内会活動を土台として、各種団体など多くの関係者が活動する地域社会を目指します。

【地域社会の実現に向けて取組むべき施策】

自 助	知る
	<p>①住民が自治会町内会活動の理解を深める</p> <p>近隣関係の希薄化や住民意識の低下に対して、自治会町内会活動への理解を深め、住民が自分の事として参加するきっかけを作っていくため、区役所や個々の自治会町内会がこれからの地域福祉における自治会町内会の役割と重要性について情報を発信します。</p>
共 助	参加・行動する
	<p>①住民が参加しやすい場づくり</p> <p>運動会、夏祭り、敬老の集いなどイベント等を開催し多くの方々が参加でき、顔が見える関係を構築します。また、PTA や子ども会などとの連携により子育て世帯を巻き込むことや孤立しがちな単身世帯、障害児・者、高齢者などへの日ごろからの声かけなども有効になります。</p>
助	つながる
	<p>①住民同士のつながりを強化する</p> <p>東日本大震災以降、安全・安心への意識が高くなっています。防災訓練などを通じて、顔が見える関係づくりを進めるとともに、住民同士の支えあいや見守りの仕組みを作ることで、住民が主体となる共助の地域社会づくりにつなげます。</p>



【目指すべき地域社会のあり方】

2 各種団体の活性化とつながりのある地域社会

栄区では、民生委員、スポーツ推進委員、青少年指導員、保健活動推進員、食生活等改善推進員、シニアクラブなど、多くの団体、機関が福祉活動や安全・安心なまちづくりを積極的に推進しています。また地区社協は福祉関係団体の連携の土台となっています。地区社協及び各種団体が一層活性化し、それぞれの活動、また、連携した活動を行い次世代につなげていくことで、安全・安心を支える地域社会を目指します。

【地域社会の実現に向けて取組むべき施策】

自 助	知る
	<p>①住民が各種団体の活動への理解を深める</p> <p>住民に各種団体の活動内容を知ってもらうことが大切です。各種団体の重要性への理解を深め、団体活動に参加するきっかけをつくっていきます。区役所、区社協が積極的に地域福祉における各種団体の取り組みや活動について情報を発信します。</p>
共 助	参加・行動する
	<p>①住民が参加しやすい場づくり</p> <p>各種団体にはそれぞれ役割があります。関わる住民の方々が参加しやすい様々なイベントや講座を開催し、各団体と地域住民の顔の見える関係を構築します。</p>
共 助	つながる
	<p>①各種団体のつながりが住民のつながりへ</p> <p>自治会町内会や各種団体同士がタイアップしたイベントなどの開催により地域の総合力を発揮します。その際、地区社協が重要な役割を果たします。世代間、地域間の交流が深まり、住民のつながりを強化します。</p>

【目指すべき地域社会のあり方】

3 地域に根差したボランティア、NPO 法人など多様な活動のある地域社会

地域社会では今後、多様化、複雑化した福祉課題が予想され、自治会町内会、各種団体だけでなく、専門的で、きめ細かな対応ができる体制が求められます。様々な経験のあるボランティアの参加、コミュニティに根差した NPO 法人などが活動している地域社会を目指します。

【地域社会の実現に向けて取組むべき施策】

自 助	知る
	<p>①人材情報の収集 区役所、区社協、地域ケアプラザ等は日頃から地域に根ざしたボランティア、NPO 法人、企業など、福祉分野に限らない幅広い活動について情報を収集します。</p>
共 助	参加・行動する
	<p>①地域ケアプラザ、区社協、区役所が拠点 区役所、区社協、地域ケアプラザ等は、ボランティア、NPO 法人、企業などが地域で活躍できるよう、情報提供を行うとともに、活動の場を創出します。</p>
共 助	つながる
	<p>①地域ケアプラザ、区社協、区役所等がプラットフォームの役割 地域課題の解決の場として、各種団体や住民など、多分野の方々が任意に参加できる体制づくりを進めます。その際、地域ケアプラザ、区社協、区役所が連携しコーディネートの役割を果たします。</p>

【目指すべき地域社会のあり方】

4 福祉施設、関係機関等が活躍する地域社会

栄区には多くの福祉施設、関係機関等があり、日頃から地域と深い関わりをもち地域の一員となっています。

これらの施設が自治会町内会や各種団体などと連携し、いざという時の安全・安心の拠点となるとともに、ボランティア等や専門性のある人材育成の場として活躍する地域社会を目指します。

【地域社会の実現に向けて取組むべき施策】

自 助	知る
	①身近に感じる各種機関 住民が身近にある福祉施設等について理解を深めることが重要です。そこで各施設が地域ケアプラザや関係機関と連携することで、施設活動の内容などについて情報を発信します。
共 助	参加・行動する
	①お祭りや福祉講座等の開催、ボランティアの活動の場 施設が身近な存在となるよう、地域住民が参加しやすい、お祭りや福祉講座などを施設で開催します。また地域住民がボランティアとして参加できるような場を設け、地域ボランティアの発掘・育成につなげます。
共 助	つながる
	①施設と地域の支えあい 施設が地域社会の一員として、地域の活動に参加し各種団体などと連携し行動します。また、施設どうしがつながりを持ち、大学などとタイアップして福祉施設全体への理解を深めることで、施設の人材確保につなげます。